

I 調査研究の目的と方法

I 調査研究の目的

学校教育は、計画的・意図的な教育活動により、「計画→実践→評価→改善」のサイクルを経ながら、その質を高めていくことが求められている。そのために、教師は日頃から研修を積み重ね、望ましい教育を目指し実践に取り組んでいる。このとき、研究も実践も目の前にいる子どもたちをできる限り正確に捉えることが必要である。

本調査研究は、国語科、社会科、算数・数学科、理科、外国語科における、十勝管内の子どもたちの学力実態を客観的に把握し、各学校の学習指導の改善に資することを目的としたものである。

本研究は、東京書籍株式会社の作成した「標準学力調査」に表れた学力の範囲で分析や考察をしたものであるため限界があり、子どもたちの学力全体を判断するまでには至らない。

それらを踏まえて、当研究所では、各学校・教育委員会の協力を得ながら、「標準学力調査3学期実施版」を実施した学校を調査対象とし、十勝管内における診断結果を基に、次のような性格をもつ調査研究を行うこととする。

- ・ 小・中学校における、学年別、教科別、観点別、基礎・活用、領域別、問題の内容別、解答形式別の傾向を目標値や全国平均正答率と比較検討する。
- ・ 目標値や全国平均正答率と十勝管内平均正答率の比較から、各学校が学力の実態を把握し、学力の水準の維持・向上に役立てる。
- ・ 指導の改善に向けた考察を行い、そのための視点や具体的な指導の手立てを明らかにする。

※ 目標値…学習指導要領に示された内容について、標準的な時間を掛けて学んだ場合、小問ごとに正答できることを期待した子どもの割合（期待正答率）を東京書籍が設定した値。

2 調査研究の方法

(I) 調査の対象

- 小学校3学年（国語、社会、算数、理科）
- 小学校5学年（国語、社会、算数、理科、英語）
- 中学校1学年（国語、社会、数学、理科、英語）

I 調査研究の目的と方法

(2) 調査対象になる児童生徒数

	国語	社会	算数・数学	理科	英語
小学校3学年	1,147名	575名	1,148名	1,087名	—
小学校5学年	1,223名	766名	1,220名	1,206名	1,048名
中学校1学年	1,177名	1,176名	1,176名	1,177名	1,177名

(3) 調査実施期間

令和5年12月～令和6年2月

(4) 調査問題

小学校「標準学力調査 3学期実施版」(東京書籍株式会社)

中学校「標準学力調査 3学期実施版」(東京書籍株式会社)

(5) 調査実施の方法

- ① 調査を実施し、コンピュータ処理を行っている調査条件に合う全ての学校を対象とし、提供されたデータを基礎資料とする。
- ② 調査は、「実施のてびき」に従い、対象校で実施する。

(6) 結果の処理(評価)

- ① 各項目の評価は、十勝管内の正答率が目標値に対してどの程度かを記号で表している。
「△」…上回っている(+5ポイント以上)
「≒」…同程度(+5ポイント未満～-5ポイント以上)
「▼」…下回っている(-5ポイント未満)
- ② 上記資料結果に基づく改善の方策例を提示する。